



第15号

# ゆうりんの家 通信

編集：LLPゆうりんの家  
京都市伏見区深草西浦町4-18  
TEL(075)643-3239  
FAX(075)641-1665  
発行日：2007年7月20日  
編集者：水谷 隆司



## 私の思う「共生の心」

ゆうりんの家有限責任事業組合  
代表組合員 田村 耕  
(有限会社ビーオブエス 代表取締役会長)

最近、新聞やテレビのニュースを見ていると、痛ましい事件や考えられないような出来事をよく耳にする。そのような現在の社会に対して、ふと感じたことを思いのままに綴ってみた。

社会は、需要と供給の原理で成り立っている。ある品物を必要としている人がいるとしよう。片方 その品物を売っている人がいる場合、双方の意向が合えば、お金を支払う事で需要と供給という原理で成り立つ。又 介助を必要としている人がいる。片方 介助を提供している人がいる場合、双方が合意すれば成り立つ。が「品物」と「人」では「お金」という形で全て割り切れるものではない。あくまでも「人」となると、「お金」だけではなく、どうしても「心」がついて回ってくる。ではどうすれば好いのかと云えば、「心」の部分の割り切るには、「ギブ&テイク」というルールのもと「援助」と「対等」と言う様に割り切れればどうだろう？ある冊子の1コーナを紹介しよう。

【ボランティア「学」は難しい、ボランティア活動を「善悪」「強弱」「ポジネガ」「自他」の単純な二分法で切り分けることを戒めながら、全体理解に務めてみるが、結構難しい】と書かれてあった。

1960年代の様に、ボランティアという言葉が素直に聞き入れられない今の人間社会が、ボランティアを難しくしていると思う。「共に人間らしく生きる」という事が根底にあれば「援助」もしくは「支援」と「対等」という様に理解出来るのではないだろうか。

人はなぜ「生きる」のか？ なぜ「生きている」のか？

人に頼りながら「生きる」人生もあれば、人に頼られ生き甲斐を感じて「生きる」人生もあるはず。お互い自分に無い部分を共有し合うことにより「生きる」意味を実感しつつ、共に「人間らしい」人生を送れる社会を構築することが求められている。

私たちも田村代表の想いととも、「共に生きる」という「心」を大切にしながら、ゆうりんの家の活動やビーオブエスの事業に邁進していかねばと感じています。

### 電話番号変更のお知らせ

下記のとおり電話番号が変更になりました。



- ・ゆうりんの家 (075)643-3239
- ・ビーオブエス居宅支援事業部  
(075)641-1661

当面は従来の番号もご利用になれます。

### 今年の一泊旅行は金沢・羽咋方面へ！

8月26日(日)・27日(月)に一泊旅行を実施します。行き先は金沢・羽咋方面を予定しています。北陸方面の宿は昔ながらの旅館が多いために、バリアフリー設備の整った宿がなく、企画段階でかなり苦戦していました。近日中には、詳細のご案内をお届けしますので、もうしばらくお待ちください！

今年もみなさんと共に楽しい旅行にしましょう！

クリーンスペース株式会社は15年以上も前から、期限切れレントゲンフィルムの廃棄用回収事業を授産施設の業務にすることに取り組み、伏見区内の授産所を中心に、この分野の収益に貢献して来られました。景気変動で授産所も仕事の量も常に一定ではなく、このフィルム回収は、常に一定レベルの業務量と仲間の工賃に寄与されています。そうした経験もあり、今回多数の知的・精神障害者とともに、企業内の新規事業分野として、ペットボトルの再生事業をスタートされ、すでに軌道に乗りつつあります。

## ペットボトル事業と今後について

クリーンスペース株式会社  
総務部長 中川 邦彦

昨年12月1日より、障害者と共生できる企業を目指して、10名の障害者仲間と新しい事業をスタートしました。はじめは設備もなく・ペットボトルの集荷も少なく、惨憺たる状況でしたが、そのようななか7ヶ月が経過し、機械設備はとにかく全て揃いました。しかし機械の調節がまだ少し完全ではなく、99.9999%の精度のものができましたが、欲を云えばあとほんの僅か私たちの満足状態には届かないというところです。



ペット樹脂は、不純物が混入していると安くなり、純度が高いほど高値で売れます。

私たちは京都の加工業者の中では、一番良質のものを目指しています。

ペットボトルからフレーク状の製品にして売却しますが、繊維やペットボトルに再利用されたりシートに再加工されたりします。

私たちが目指すのは「平行リサイクル」です。品位の悪いリサイクルでは固形物になり、次は熱源としてのリサイクルしかできません。「平行リサイクル」ができると、次もその次もペットボトルにすることが可能です。折角リサイクル事業を手がけているので、何度でもペットボトルに再利用できるものを生み出したいと全員で思っています。

障害があるということは、生産性を第一義に考える資本主義社会にとっては「働き難い」ということであり、『その「障害がある人」が「役に立たないもの」を再度「役に立つ」ものに変えていくということは、大変意義のあることだ』とは実際に障害がありながら再生作業を行っている障害者自身の言葉です。

この言葉は私たちクリーンスペース株式会社の座右の銘であり、こういう作業に取り組む上での原点です。

ペットボトルは、私たちの生活に大変身近であり、知的障害者も取り組みやすい事業です。身近なものを身近な形で再利用していくことは、抽象概念を理解しづらい障害のある方々にも、わかりやすく・すんなりと入っていくことができます。

私たちはさまざまな障害のある方と、このペットボトルの再利用という作業を、これからも楽しく続けていきたいと願っています。

これからの目標は、京都府下に100件ほどある障害者施設のうち、約40件程度の施設と提携でき、回収作業を委託できるようにしたい。

ラベルを剥がしてもらい、それらを回収車で回ったり・ご持参いただいたりしていきます。

障害者施設1ヶ所で10名の障害者の就労に役に立つと、40ヶ所で400人の障害者の役に立てることができ、これからの自分の人生をこれら社員やこの事業に賭けてみようという目標を定めました。

またこのような施設からだけでなく、同業の廃棄物事業者からも私たちの障害者との取り組みにご理解を頂戴し、ご協力いただける企業が出てきたこともありがたいことです。

あと僅かでパーフェクトな製品になると確信していますが、一步ずつ着実に歩んでいきたいと願い、障害者社員やその他職員で日々がんばっていきます。

見・て・い・て・く・だ・さ・い。

## 当社もペットボトル回収を実施

クリーンスペースの中川さんより、当社も回収依頼先のひとつに入っていました。中川さんとは中小企業家同友会の障害者問題委員会の繋がりも濃く、前述のとおり、新たにスタートをきられた事業に積極的にも協力していこうと、私たちも体制を整えました。

早速 6 月より従来のアルミ缶回収にペットボトルも追加。でもこれって本来の事業ではなく、ボランティア活動のひとつなんです。担当している会員さんもこの種の回収は熟知。要領を聞けば翌週から自分たちのペースで作業されています。



ペットボトルを  
車椅子で踏み潰しています

内容は違えども同じ障害者分野のこと。会員さんもぜひ成功して欲しいと思いつつ作業してくれているのかな？ これらの収益はさほど多くはないものの、自立ホームの運営資金に当てています。アルミ缶・ペットボトルの回収も障害者分野には必要な作業なのです。

というわけで、ペットボトルを集めています。いっぱい持ってきてください！ まだまだ私たちにも余力はありますので・・・！！ ご協力よろしくをお願いします。

## 利用者さん紹介

個人情報  
の保護により  
表示  
できません

ワープロでポエムや小説を書きためており、その中のひとつを紹介します。いろいろ感じてネ。



## ひかり

にんげんは ひかりが なくてはいきていく ことが  
できない にんげん だけ ではない しよくぶつも  
どうぶつも ひかりが なければ いきていく ことは  
むりである おれも ひかりが ほしい ような きが する  
それは あいと という ひかり その ひかりが おれは ほしい  
ひかりは いろを もっている それも ひとつ ではなく  
7いろも もっている その 7いろで はなをつくり だす  
あか あお きいろ むらさき いろんな はなを さかす

ひかりは まほうつかい かもしれない くらい よのなかを  
いろんないろであかるく かえていく おれは そんないろが すきだ  
もし このよ から ひかりが なくなったら みんな こまる  
たべものは できないし あかちゃんが うまれても いろを しらない  
おとなに そだって しまう それ ほど かなしい ことは ない  
よのなか から ひかりが なくならない ように 7つの いろが  
きえない ように あいが なくならない よう がんばりたい

## ちょこっとバリアフリー情報

京都の夏の風物詩と言えば...? やっぱ鴨川の納涼床ですね。鴨川を渡る風と川の流りに涼みながら、おいしい料理はいかがですか?

### 東華菜館(北京料理)

下京区四条大橋西詰

TEL.221-1147

日本最古のエレベーターで床のフロアに移動します。店内に段差はなくスムーズに移動できます。

### ザ・リバー・オリエンタル(レストラン)

下京区木屋町通松原上る

TEL.351-8541

入口に2段ほど高めの段差がありますが、スタッフの方が手伝ってくださいます。車椅子の方も多く来られるそうです。

### 欧風料理 開陽亭(洋食)

中京区先斗町通四条上る

TEL.221-3607

入口に10cm程の段差が1段ありますが、スタッフの方が手伝ってくださいます。店内はフローリングで車椅子でも問題なく移動可能です。

藤木企画（仮）次号までに正式なタイトルを考えておきます...

皆さんこんにちは。初めての方は初めましてなんですけども...。ピーオブエスの藤木です。この度「ゆうりんの家通信」編集長の水谷氏に頼み込み、紙面の枠を頂戴して書かせてもらう事になりました。よろしくお願ひします。まず、何故こういう事を書こうかと思った理由というのは色々あるんですけど、僕は普段ヘルパー活動をしていて、利用者さん方から（あるいはそのご家族の方）介助部分とそれ以外での悩み、相談・提案等を聞いたりしても、その場面では皆さんの満足のいく返答がなかなか出来ずにいたりします。それで後になってゆっくり考えてみると、いろいろな考えが浮かんできたりするのですが、タイミング的に会わずに終いで流れてしまう事が多々ありました。そこで、この「ゆうりんの家通信」をとおして、日頃の活動で接したときに話した事などについて、自分の思った意見を書く事で少しでも皆さんの力になればと思います。今回この企画を編集長に持ち込んだときは、二つ返事でOKして頂きました。「ネタに困っていたので丁度良かったですう」まあ、クレームが来たときは続けられないのですが、出来る限り続けていけたらと思っています。

只、書いていくにあたってあまり文章ぼくせず、自分の表現（会話に近い感覚？）でやっていこうと思います。多分読んでいく側としても読み易いかと考えています。編集長には誤字があっても脚色はしないでほしいと伝えてあります。今回は初回ですのでこの辺で終わりますが、次回から少しずつ枠を増やして頂いて「MIZUTANI の Mesen」を減らしていこうと思います。（笑） ではでは。

このコーナーで取り上げてほしい内容などありましたら...

まで

## MIZUTANI の Mesen パート5 「障害者もぜひ投票に行きましょう」

7月29日(日)は参議院議員選挙の投票日です。私たちが日頃の政治に対して、意思表示ができる貴重な機会でもあります。選挙を前にして社会保険庁による年金問題、現職大臣の自殺や問題発言での辞任など、世間を騒がすニュースが続出し支持率も低下の一途をたどる安倍政権、憲法改正の是非を問いたい政府・自民党の思惑とは裏腹に、今回の選挙は間違いなく年金問題が争点となり与党には厳しい闘いとなるのでしょうか。

「選挙に行っても意味がない」「誰に入れても一緒。何も変わらない」よくそんな声を耳にします。確かにたかが一票。されど一票かもしれない。しかし、みんながそのような思いでは何も変わりません。投票という行動を起こしてこそ、初めて変化の可能性が生まれると私は思います。

思い出してください。昨今、私たち障害者の生活を苦しめる悪法「障害者自立支援法」は、厚生労働省主導の元、政府と政権与党の自民、公明両党によって施行されました。そして数年後には「障害者自立支援法」が介護保険と統合されるとも言われています。これもまた厚生労働省や政権与党によって行われるのです。そうすると現在受けている福祉サービスが維持されるかどうか分かりません。「国民の生活を守る」「未来に責任を持つ」などと聞こえの良いスローガンを掲げていますが、果たして今の与党に政権を任せていて、障害者の生活は守られるのでしょうか？今までの経緯からして守られるとは到底思えません。そのようなことも踏まえたくて、今度の参議院選挙では大切な一票を投じてほしいと思います。棄権することは今の政治に賛成票を投じているのと同じことなんですよ。

【MIZUTANI の Mesen】

ただ障害者には選挙に行きにくい面もあります。介助者が見つからなかったり、体調が思わしくなかったりと、外出できないこともあります。一番のネックは投票所のバリアフリー状況でしょう。多くの投票所は、地域の学校の体育館や公民館・集会場を使用し、それらの中にはバリアフリーの設備がなく投票に行けないとの話しもよく聞きます。私が住んでいる地域の投票所は小学校の体育館ですが、幸いにもスロープなどの設備があり、電動車いすでも行くことが可能です。しかし私が選挙権を得た当初は、投票所の入り口に上履き用のスリッパが並べられ車いすが通れなかったり、介助者に投票用紙への記入や投票箱への投票も手伝ってもらわないと困難でした。選挙ごとに投票へ行き続けたことで、今では選挙管理委員の方が投票所の入口から投票を終え投票所を出るまで付きっきりで手伝ってくださいます。そういったことから、障害者が投票へ行くことは大きな意味があると思います。しかし、誰もが投票しやすい環境、例えばネットで投票できるようにするなど、選挙の投票システムのバリアフリー化も必要ではないかと思ひます。ただ、組織票で守られている今の与党が、わざわざ投票率を上げるようなことはしないでしょうけどね！

## 各種ご協賛賜り

ありがとうございます

### 賛助会費

・千幸様

ゆうりんの家の運営は、多くの方々のご支援ご協力により成り立っています。

## 編集後記

先日、一週間ほどスイスを旅してきました。普段は雨男で有名な私も海外では晴れ男！天候にも恵まれアルプスの山々を堪能してきました。次号の Mesen ではスイス旅行記を紹介したいと思ひます。

・スイスで気分もリフレッシュ！帰国後に入社すると待っていたのは「ゆうりんの家通信」の編集作業。添乗員が英語をペラペラと話すよう

に、私も記事をスラスラと書けたらいいけど、現実にはそんなに甘くはないですね。（T.M）  
・前述の通り、編集長は4000m級の山で楽しみ顔の皮が剥け放題。紫外線ってきついナァ！  
・その間にもペットボトル回収を実施。集めた廃品が再活用されるって地球に優しいですね。  
・障害者も自分たちの出来る範囲で協力していく。皆さんも是非ご協力くださいネ。（T.S）